

は現在、養殖現場で広く使用されるようになったことから本疾病の発生は減少する傾向にある。

本病の原因菌は1974年に発生した魚からグラム陽性のレンサ状球菌が分離され、当時は *Streptococcus faecalis* あるいは *Streptococcus faecium* と近似する性状を示すが完全に性状が一致しないために、便宜的に *Streptococcus* sp. とされた。

1991年にKusudaらは、本菌をその生物学的性状から *Enterococcus* 属の菌種とし、*Enterococcus* 属の既知の菌種とのDNAハイブリダイゼーションで相同性が25%以下であったことから、新菌種として *Enterococcus seriolicida* を提唱した。

その後、*E. seriolicida* については、Domenchら(1993年)、Eldarら(1996年)並びにTeixeiraら(1996年)がそれぞれ膜蛋白のSDS-PAGE像、16S rRNA 遺伝子の塩基配列、全菌体蛋白のSDS-PAGE像、DNAハイブリダイゼーションで70%以上の相同性、ハイブリッドの安定度( $\Delta T_m$ )が1℃以内であること等により既知の *L. garvieae* と同一菌種であると報告した。

哺乳動物由来の *L. garvieae* は1981年にはじめてGarvieらにより乳牛の乳房炎から分離され、新菌種 *Streptococcus garvieae* と命名された。その後1985年に *Lactococcus* 属が新たに設定され、*S. garvieae* は現在 *L. garvieae* と認知されている。牛や水牛では、その後も乳房炎、乳汁より分離される細菌として報告があるが、その他の感染症での報告はない。ヒトでは人工弁を装着した患者及び老人女性の心内膜炎、免疫抑制状態の患者の肝膿瘍、骨髄炎から分離されている。その他、健康な犬、牛の扁桃、猫の顔、カメの結膜からも分離されている。このように *L. garvieae* は、哺乳動物から病巣を含め広く分離されているが、感染症の原因菌であるのか、二次感染菌であるのか明らかにされていない。

哺乳動物(ヒト、牛)由来の *L. garvieae* とブリ属由来の *E. seriolicida* が同菌種とされたことから、Velaら(2000年)はヒト、牛、魚、環境(飼育水)由来の *L. garvieae* について生物学的表現型、遺伝学的型別による疫学的解析を行った。その結果、スペインのマスより分離された株と飼育水より分離された株が同じであったものの、異なる地域、異なる由来の *L. garvieae* はそれぞれ異なる生物学的表現型、遺伝学的型を示す傾向が認められた。これらの結果は、魚、ヒト、牛由来の *L. garvieae* は、異なるクローンであることを示唆している。

今回、ブリ属魚類に特異的と考えられた  $\alpha$  溶血性レ

ンサ球菌症原因菌が、実は自然界に広く分布していることを紹介した。牛、ヒト等の哺乳動物由来と魚由来の *L. garvieae* が同一菌種として確定されてからまだ日が浅いことから、本菌の生態、疫学、病原性など未知の部分が多く、今後の研究が望まれる。

(ミニレビュー ; *Lactococcus garvieae*, the pathogen which causes Lactococcosis in yellowtail— the relationship between *Lactococcus garvieae* isolated from humans and cows— ; Japanese Journal of Lactic Acid Bacteria, 14 (1), 2003, pp.2-6)

#### 猫から分離された犬パルボウイルス 2b 型の猫に対する病原性

蒲生恒一郎、嶋崎洋子、牧江弘孝、千田 恵、伊藤 治、井上剛光

近年、日本を含め世界各地で猫から犬パルボウイルス(CPV) 2a型及び2b型が分離されている。しかし、それらのウイルスの猫に対する病原性は明確になっていない。そこで、我々は猫から分離されたFP84株(CPV2b型)の猫に対する病原性を感染試験によって検討した。感染試験は18週齢のSPF猫3頭に $10^{6.7}$  TCID<sub>50</sub>のFP84株(2000年東京で分離)を経口的に感染させた。その結果、FP84株は猫で増殖し、下痢、白血球減少、食欲不振等の症状を示し、3頭中2頭が死亡した。

FP84株は猫に対し病原性を有していたので、猫におけるCPV感染に対する猫汎白血球減少症不活化ワクチンの有効性を確認する必要がある。

(J. Vet. Med. Sci. 65 (9), 1027-1029, 2003)

#### 【学会発表要旨】

##### —第137回獣医学会—

過去4年間の全国調査において健康な家畜から分離されたサルモネラの薬剤感受性

○浅井鉄夫、江崎英剛、石原加奈子、小島明美、田村 豊、高橋敏雄

#### 【背景】

サルモネラは、食中毒の原因菌で、人や家畜などの哺乳動物から鳥類や爬虫類まで広く分布することが知られている。我々は、家畜由来の薬剤耐性菌又は耐性遺伝子が畜産物を介して人へ伝播し、人の細菌感染症の治療を困難にするという潜在的な危険性を検討するため、家畜衛生分野における薬剤耐性モニタリング体制(JVARM)の中で健康な家畜(牛、豚、採卵鶏、